

さしてコシ何でしょう?

～シミズ毎日⊗紙きりに挑戦!!!～

ハサミを自在にあやつり、あっという間に芸術的な切り絵を生み出す、紙きり。その公開講座「紙きり教室」(NPO法人ヤングカレッジ主催)が、先月3日に清水中央公民館で開催。今回シミズ毎日も参加し、講師の柳家松太郎師匠の指導で、紙きりに挑戦してきました!



一

「私、絵が描けないけど紙きりなんて出来るのかしら?」という参加者からの問いに、柳家先生は「むしろ絵はまったく描けない方がいいんです。絵が描ける人は、その要領でハサミを使ってしまおう。必要なのは、想像力。だから想像することが出来ないと、紙きりは出来ないんですけどね」。なるほど!! いかに想像力を働かせられるかが、ポイントのようです。



講師の柳家先生は各地の寄席や「笑点」等のテレビにも出演している方で、紙きりに

二

それから紙きりに必要なのは、ハサミと白い紙だけ。使うハサミにはガタ(あそび)があった方がよいので、刃の合わせ目をゆるめる事のできる「ネジ付」のモノを用意しましょう(工作ハサミより、もうちょっと高級なハサミで)。白い紙は100円均一で売っているモノでOKです。

《道具》

ハサミの刃はうまい方がいい。工作用ではなく、3000円相当のハサミを使いま



六

こうして3つに切り分けられた円を机の上で組み合わせ、出来上がったのが、上の大きな写真の作品。実はコレ、白鳥なんです。「...どのあたりが?」とつっこまれるのも無理ない、驚愕の出来ばえ。一応、とんがっているのがくちばしで、水の中を泳いでいる姿です。



↑先生が手に持っているのが、お手本の白鳥。同じ切り方をしたはずなのに、こんな大きな差が出ようとは。



七

気をとりなおして、次!今度は白鳥のイメージを頭の中で想像しながら、自分なりの白鳥を切っていきます。絵を描く時のように下描きをしてからではなく、いきなり本番の紙きり。想像力と思いきりのよさが問われます。なんとか、完成。



先生の白鳥(左)とシミズ毎スの白鳥

うーん いざ白鳥を思い浮かべようとすると出てこないものだな



八



今回紙きりを体験させてもらい、思ったように切れないことに難しさを感じつつも、想像力をフル活用させる自由なところに、とっても興味をもちました。柳家先生は「作品をもらった人が喜ぶもの、飾っておきたいと思うものを作ろう...そんな気持ちで紙を切ることが大切です。また、頭を働かせるからポケ防止にもびつたりですよ(笑)」と話してくれました。芸術の秋。皆さんも、ハサミの芸術・紙きりにチャレンジしてみませんか?